

中国とどう付き合って中医学を勉強するか ～上海で奮闘する町医者のつぶやき～

藤田康介

上海東和クリニック 中医科

今や日本でも中医学の教科書などが比較的手に入りやすくなり、勉強する機会も増えてきた。筆者も、1996年から今日まで上海に滞在し、中国の大学・大学院で12年間中医学の教育を受け、多くの老中医と診察を勉強しながら臨床活動を続けているが、教科書の中医学を一通り勉強した大学卒業後の勉強法というのは、中医学の臨床をスキルアップさせる上で非常に重要であると考える。中国でも現役の中医師に対して生涯教育システムを導入しており、医師の職称試験を受けるための単位を取得する必要がある。

一方で、近年は日中間の往来も盛んになり、日本からも気軽に中国に飛べるようになつた一方で、中医学の日中間の学術交流は80年代と比較して今ひとつ盛り上がりっていないという声も聞かれる。その背景に、どのような方法で大学とコンタクトを取り、どういう先生を選び、どう勉強するかという根本的な問題につまずくことが多い。また、予め中国側で準備されたプログラムにも不満を感じてしまうケースも少なくない。

現代中国の中医学では、教科書の中医学だけでなく、養生分野も含めた広範囲での中医学の国民的な普及を目指している。また、老中医の工作室も各地に普及し、流派の研究も盛んになっている。学術研究では論文発表だけでなく、国・省(市)・学会単位で研究成果を評価するシステムもあり、こうした情報も勉強する上で役に立つ。中国の中医学のもう一つの魅力として、地域による違いも見逃せない。北方や南方など気候風土の違いにより、中医学が様々な発展をしており、日本で応用するときの大切なヒントになると考える。また、地域の無形文化財として大切に保護されている中医学もある。さらに近年の特徴として、SNSを中心にインターネットを活用した中医学の学習システムが充実しており、さらに様々なコミュニティーも形成され、活発な議論が行われ始めている。

上海での具体例を示し、中医学の魅力を感じながらスキルアップしていく方法をご紹介する。